清水町
防災ハザードマップ

洪水　土砂災害　地震　噴火

防災ハザードマップについて

「清水町防災ハザードマップ」は、大雨によって清水町近辺の河川が増水し、堤防が決壊した場合に被害が想定される浸水区域や土砂災害のおそれのある箇所、地震想定、地震被害、富士山が噴火した場合の溶岩流が到達する可能性がある範囲、避難所などの情報を示したものです。

このマップの使い方

この防災ハザードマップを通じて、想定される災害を認識し、避難経路・避難所・避難行動・災害危険箇所などを確認してください。また、家庭や学校、事業所、地域における防災・減災活動にご活用ください。

想定される災害の前提条件

■清水町の浸水想定

狩野川水系狩野川・黄瀬川・大場川・来光川・柿沢川において、想定しうる最大規模の降雨（1000年に一度程度の発生確率）による浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を示しています。これは、想定最大規模の降雨に伴う洪水をシミュレーションにより予測したものです。前提となる降雨は以下になります。

48時間の総雨量

- 狩野川流域（大仁地点より上流）828mm
- 狩野川流域（徳倉地点より上流）746mm
- 狩野川流域（黒瀬地点より上流）721mm
- 黄瀬川流域（本宿地点より上流）852mm
- 大場川流域（大場地点より上流）844mm
- 来光川流域（蛇ヶ橋地点より上流）847mm

■清水町の地震想定

相模トラフのプレート境界で発生した元禄関東地震（マグニチュード8.2）を、現在の知見をもとにシミュレーションにより予測したものです。

■清水町の溶岩流想定

富士山山体の南東側を火口とする大規模（宝永山の南東約2～3㎞付近）、または中規模（宝永山の南東約8～9㎞付近）の噴火が起きた場合の溶岩流をシミュレーションにより予測したものです。

洪水について

■浸水想定区域

浸水想定区域は、次の2種類の氾濫が起こった場合の浸水区域を示しています。

外水氾濫

河川の水位が上昇し、堤防から水があふれ住宅などが浸水します。

内水氾濫

一時的に排水施設の処理能力を超える場合や、河川の水位上昇に伴って雨水を排水できない場合に建物、道路などが冠水します。

■基準水位観測所（水位危険度レベル）

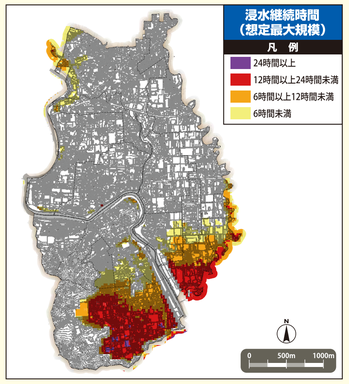
川の水位が上昇するに伴って、氾濫の発生する危険性が高まります。狩野川・黄瀬川では、以下の各基準水位が設定されています。避難判断水位に達した時に高齢者等避難、氾濫危険水位に達した時に避難指示が町から発令されます。

河川名	観測所名	所在地（位置）	水防団待機（指定）水位	氾濫注意（警戒）水位	出動水位	避難判断水位	氾濫危険水位（洪水特別警戒水位）	計画高水位
狩野川	徳　倉	清水町徳倉	3.0m	4.0m	4.6m	6.8m	7.2m	7.58m
黄瀬川	本　宿	長泉町本宿	2.0m	3.0m	3.8m	3.9m	4.2m	6.18m

■浸水継続時間（想定最大規模）

浸水継続時間（想定最大規模）とは、浸水深が 50cm になってから最終的に 50cm を下回るまでの通算時間です。浸水継続時間が長期にわたると想定される地域では、立退き避難せず自宅の２階などに待避した場合の問題として特に以下の点に注意してください。

- 浸水深が深い場合には、家から外に出られない。
- 備蓄していても水や食料等がなくなる。
- 衛生環境が悪化する。
- 病人が出た場合に対応が難しい。
- 定期的な診療を受けている人は診療を受けられない。



土砂災害について

■土砂災害の種類

土砂災害とは、大雨などにより山や崖が崩れたり、水とまじりあった土や石が流れたりするなど住民の生命または身体に被害が生じる自然の災害です。

主な種類として「急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）」「土石流」「地すべり」があります。

急傾斜地の崩壊（がけ崩れ）

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震による影響によって急激に斜面が崩れ落ちます。

土石流

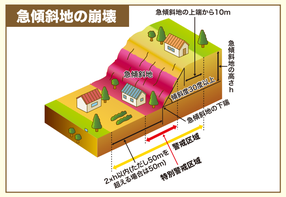
山腹、川底の砂や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されます。

地すべり

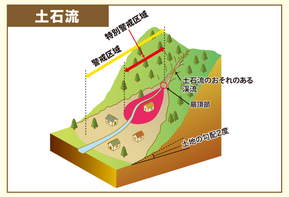
斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によって、ゆっくりと斜面下向に移動します。

■清水町の土砂災害

急傾斜地の崩壊



土石流



土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域（以下、土砂災害警戒区域等）は、土砂災害の危険から住民の生命または身体を守るため、土砂災害防止法により指定される区域です。清水町では、急傾斜地の崩壊や土石流のおそれのある区域が静岡県により指定されています。地図面（裏面）には、土砂災害警戒区域等の情報を示しています。土砂災害警戒区域等に指定された区域では次の処置が行われます。

土砂災害警戒区域

土砂災害が発生した場合に、住民の生命または身体に危険が生ずるおそれがあると認められる土地の区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害特別警戒区域

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民の生命または身体に危険が生ずるおそれがあると認められる土地の区域であり、一定の開発行為の制限、建築物の構造規制などが行われます。

気象に関する情報について

降雨によって洪水や土砂災害が引き起こされます。国や自治体では、気象に関する情報として住民などに以下の情報を発信しています。

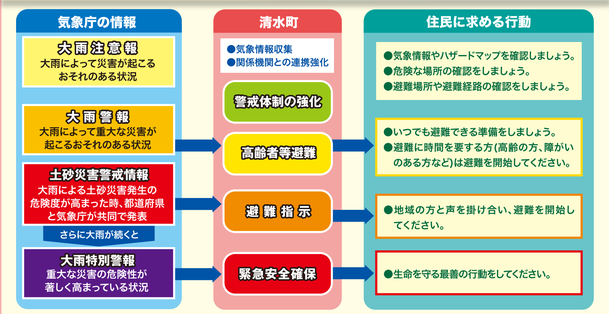
■雨の強さと降り方

1時間雨量	10mm以上20mm未満	20mm以上30mm未満	30mm以上50mm未満	50mm以上80mm未満	80mm以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる

■土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報とは、大雨情報（土砂災害）が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度が高まったときに、対象となる市町村を特定して都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。この情報をもとに市町村長は避難指示などの発令を適時適切に行います。

避難行動段階について



参考：気象庁、土砂災害に関する防災気象情報を活用した避難行動について

溶岩流到達可能性範囲について

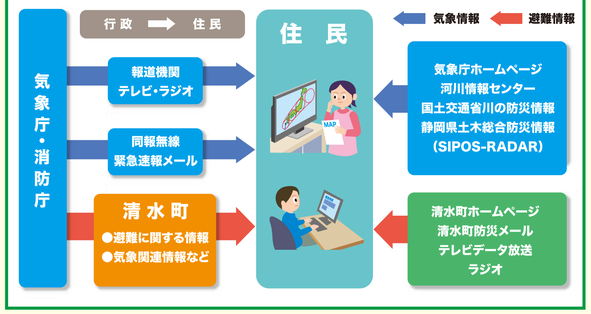
富士山の噴火履歴をもとにいくつかの条件を仮定し、噴火による影響が及ぶ可能性のある範囲をシミュレーションして、溶岩流の到達時間や最終的に到達する可能性のある範囲を地図面（裏面）に示しています。

なお、このハザードマップで示す溶岩流到達可能性範囲は、次に発生する富士山の噴火を予測したものではありません。実際の噴火では、火口位置や規模によってシミュレーションとは異なる範囲に影響を及ぼすことがあります。

情報の入手先

災害発生の危険性が高まっている時、または災害発生時には、町や消防、警察、報道機関などから流れる正しい情報を入手しましょう。

町をはじめ、国や県では気象・河川などの防災情報をホームページなどで配信しています。みなさまも自ら積極的に情報を入手して自主的な早めの避難にお役立てください。



緊急速報メール（エリアメール）

緊急速報メール（エリアメール）はNTTドコモ・KDDI・沖縄セルラー・ソフトバンク・ワイモバイルが提供する携帯電話・スマートフォン・タブレット端末向け災害情報伝達システムです。

NTTドコモ・au・ソフトバンク・ワイモバイルが対象エリア内の「緊急速報メール（エリアメール）」受信機能を持つ携帯電話・スマートフォン・タブレット端末に対し「避難情報」などを一斉配信します。

清水町防災緊急配信メール
事前登録必要

防災緊急配信メールは、事前に登録いただいた携帯電話やパソコンの電子メールに防災情報を配信するものです。

①下記の登録用アドレスに空メールを送る。（右のQRコードも利用できます。）

②送信後、届いたメールにあるURLをクリックし、必要な項目を登録して完了。

t-shimizu@sg-m.jp

清水町防災アプリ
事前登録必要

町の同報無線の放送内容を音声と文字で確認でき、災害時には「避難情報」から町で発令中の避難情報や避難所の場所を地図上で確認できるアプリです。

App Store　Google Play

お問い合わせ先	清水町役場 くらし安全課 防災対策係　電話：055-981-8205

災害への備え

■ 日ごろから備えておきましょう

- 非常用持ち出し品を準備しましょう。
- 正確な情報収集に努めましょう。
- 事前に避難経路を確認しましょう。
- 避難指示などの発令に注意しましょう。

■ 家族会議を開きましょう

- いざという時の連絡のとり方などを決めておきましょう。
- いざという時の役割など決めておきましょう。
- 防災設備の使い方などを覚えておきましょう。
- 家の周りの状態を確認しておきましょう。

■ 避難訓練について

万が一の事態に遭遇しても、落ち着いて適切な避難行動や応急活動ができるように日ごろから十分な訓練を積んでおくことが必要です。

■ 要配慮者について

要配慮者とは、災害発生時において、高齢者、障がい者、乳幼児などの特に配慮を要する方のことです。

過去の災害の教訓から要配慮者施設（社会福祉施設など）では、避難訓練が義務化されています。災害時に施設利用者が適切に避難できるよう、施設管理者が適切に避難指示できるよう訓練を行いましょう。

過去の災害

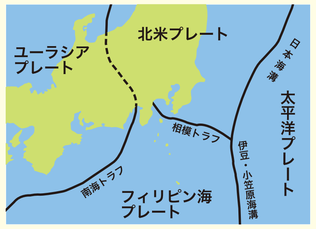
■ 清水町の洪水や土砂災害状況

清水町では、過去に大きな洪水や土砂災害における被害は発生していません。しかし、想定しうる最大規模の降雨が降った場合、地図面（裏面）に示す範囲で被害が発生すると考えられています。

想定される地震について

■静岡県第４次地震被害想定

平成25年に静岡県は、東日本大震災の教訓を生かし、地震にレベル1（発生頻度が比較的高く、発生すれば大きな被害をもたらす地震）、レベル2（発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震）として区分し、地震と津波を想定した被害想定として、静岡県第４次地震被害想定を報告しました。この報告では、「駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震」と「相模トラフ沿いで発生する地震」が想定されています。これらの想定される地震のなかで、清水町において最も大きな影響を与える地震は、相模トラフ沿いで発生する「元禄型関東地震（マグニチュード8.2）」とされています。この防災ハザードマップは、県の報告に基づき「元禄型関東地震」による被害を想定した震度階級と液状化危険度を示しています。



震度と想定される被害　※元禄型関東地震が発生した場合、清水町において震度4と震度7は想定されていません。

震度 4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。
- 自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。

震度 5弱

- 棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。
- まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。
- 電柱が揺れるのがわかる。

震度 5強

- 物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 自動車の運転が困難となり、停止する車もある。

震度 6弱

- 立っていることが困難になる。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造住宅では、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

震度 6強　★清水町想定最大震度★

- はわないと動くことができない。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
- 耐震性の高い木造住宅でも、壁などにひび割れ・亀裂がみられることがある。

震度 7

- 揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。
- 耐震性の高い木造住宅でも、まれに傾くことがある。

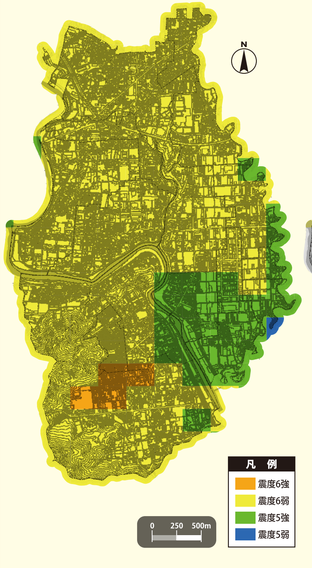
参考:気象庁、気象庁震度階級関連解説表(平成21年3月31日改定)

清水町の地震想定

元禄型関東地震（マグニチュード8.2）が発生した場合に想定される震度と液状化について、シミュレーションをしました。清水町で想定される最大の震度階級は6強です。地震を感じたときは、まずは身の安全を確保しましょう。液状化とは、今までしっかりと建物を支えていた地盤が地震による揺れを受けることで液体のようになる現象です。地盤が液状化すると重い建物等を支えられなくなるため、建物の傾斜等の被害が発生します。

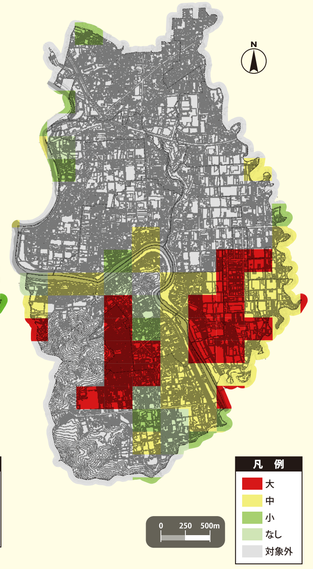
揺れやすさマップ

揺れやすさマップは、地盤の状況とそこで起こりうる地震の両面から地域の揺れやすさを震度階級として示したものです。



液状化危険度マップ

液状化危険度マップは、建物・堤防・橋梁・ライフライン施設などに影響を及ぼす液状化の可能性の大小を判定して示したものです。



出典：静岡県、静岡県第4次地震被害想定調査（第一次報告）（平成25年6月27日）静岡県、静岡県第4次地震被害想定（第二次報告）報告書（平成25年11月29日）